令和 7 年度　独立行政法人日本スポーツ振興センター新博物館展示・運営に関する有識者懇談会
（第 7 回）議事要旨

1．日時　令和 7 年 7 月 30 日（水）15：00～17：00

2．場所　独立行政法人日本スポーツ振興センター 外苑事務所

3．出席者
・委員（計 9 名）
池田めぐみ委員、笠原健司委員、君原嘉朗委員、沓沢博行委員、栗原祐司委員、建石徹委員、田良島哲委員、町田樹委員、山神孝志委員
・事務局
大西理事兼館長、末木推進役、新名主幹、木村専門職、壬生施設部企画調整役

4．議事内容
議題　新博物館の開館にむけた運営の在り方について
丹青社より資料 2 について説明があった。委員からの主な意見は以下のとおり。
○これから具体化する上でアクセシビリティはしっかりとしていかれると思うが、世の中では障がい当事者もクローズアップされており、時代や社会課題と合致している。新博物館においても、よりもう一歩考える意識をもって具体化できるとよい。
○知覚過敏、弱視、色覚障がい等の方々に向けてどのような対応がよいのか、あらゆる博物館が取り組んでいる課題である。できるだけ多くの方々にみていただけるということが重要だと思うので、引続き検討を進めてほしい。
○今年デフリンピックが日本初開催であり、ワールドマスターズゲームズ 2027 関西も初開催されるので資料収集を視野に入れてほしい。

議題（ 1 ）コミュニケーションラウンジの活用について
丹青社より資料 3 について説明があった。委員からの主な意見は以下のとおり。
○ゾーニングの考え方として、展示室が近いため飲食を NG にする空間なのかどうかで使い方が変わってくるのではないか。イベントで 50 人来てもお手洗いの数も少ないため疑問がある。
○アイデアとして、色々な企画展を開催するのはどうか。サッカーや陸上等の競技に絞った企画展や、時代、国等がテーマの切り口。ドーピングの歴史、何か数字や記録を集めた企画展、身体や心にフォーカスした企画展等。楽しいスポーツが軸にある企画展は様々できるのではないか。
○資料展示は環境上難しいと思うが、パネル展ならできるのではないか。
○展示室から近く仕切ることが出来ないため、席を並べるのは難しく、通常のレクチャー形式は散漫な形になってしまうのではないか。館の方針にもよるが、この空間では諦めるという選択肢もあるのではないか。実態的なラウンジよりワークスペースというような場所という位置付けにするのもよいのではないか。文化財的な資料の出ない展示スペースも考え方のひとつ。映像展示をできるよう、小さ

めなディスプレイを壁一面に変えてイマーシブな展示や実際の動きと連動するような展示ができるように環境を整えるのはどうか。

○ここは展示前のフリースペースであり、コミュニケーションを重視されていることを鑑みると、スポーツそのものを展示する、スクリーンで放送事業者とどこまで連携が取れるかにもよるが、映像会社と連携してスポーツ観戦をするというのが本質ではないか。誰もが入って来られる場所だと思うので、皆が気軽に立ち寄って、（音が出せるのかは分からないが）音質のいい大画面で環境良く観戦できれば、仮に博物館内部に興味がなくとも来ていただけるきっかけにはなるのではないか。著作権（伝達権）の処理ができれば、上映も可能。非営利組織のため伝達権の権利処理のハードルも下がるのではないかと推測している。

○権利をクリアして過去の名場面をみせるのもよい。自分の見たい競技番号を押して見れる視聴覚室のような空間もよい。レクチャー空間として使用するのは展示室が閉まっていないと無理ではないか、閉館時ではないと難しい。その際はドリンク OK にするのがよいのではないか。

○展示室は設定したテーマに向かって人が集まってくる場所だと思うが、コミュニケーションラウンジは高度な検索ができる場所になるとよい。あの時のあの試合のあれって何だったっけとか、ここで検索可能なものは外に出てないものも多いのではないか。イベント、人、年代、歴史なのか、ここに来たら調べられるという機会を提供できるとよいのではないか。また来たいという行動にも繋がるのではないか。コミュニケーションをとって一緒に考える場所となると、資料や本があるというイメージがある。触ってもいい資料で壁を埋め尽くしてもよいのではないか。コンセプトに立ち返って、考える場がここにあるだけでもよいのではないか。

議題（２）展示スペースの入場管理の方法について

丹青社より資料 4 について説明があった。委員からの主な意見は以下のとおり。

○世界的にもキャッシュレスが増えてきており、人件費抑制のためでもあるため人が対応するのはいかがなものか。ＱＲコード対応にすると設置スペースも必要なため、展示面積が減ってしまう可能性もある。

○（関係館の事例紹介）基本的には事前予約制（優先）としているが、都心にあるため外国観光客の方々をいざなっている。英語の HP はあるが、事前予約できていない方々が多く、その場で手続きをしている。海外の方々に限らず、事前予約していない方々がどれくらいいるのか、どのようにアクセスしてもらえるようにするのかは手間がかかった。18 歳以下と 70 歳以上は無料にしているが、年配の方々は証明書を持参していないことが多く、何らかの形で人はいないといけない。なるべく人件費をかけずに、出入口が一緒となるとしっかりやらないといけない。

○割引について、例えばマイナンバーカードを持っていれば安くするという議論があるが、その場合は対象が日本人のみになってしまう。証明書が必要になるとより大変。金額設定を複雑にすればするほど入口でのトラブル等が大変になる。

○ラグビーチケットを持っている方々は割引があるのが当然のような気もするが、その場合はどうするのか等も出てくる。

○（関係館の事例紹介）規模感の違いもあるが、無人にはできない。団体の入場はどのように発券して入場してもらうのか等、対応が難しい。団体には違うタイプのチケットを発券し、別の入口から入れ

る運用をしている。特別展等でもQRコード対応をしているが、再入場の対応も難しい。新博物館はお手洗いが外にあるため、対応が難しいのではないか。入場者を発券ベースか人でカウントするのかで数の処理も課題としてあるのではないか。

○ラグビー場に来る人々を誘導するのが集客の一番大きな要素になる。ラグビー場に試合観戦のため来た人達が博物館に追加でお金を払うかは､かなりシビアに考えないといけない｡仮に500円としても、果たしてそこで入ってくるか厳しい。そこを諦めてラグビー場に試合観戦にきた人は完全無料とする選択肢もあり。入場者数は増えるため、評価の軸を設定してしまえば、それでよしとすればよいのでないか。有料エリアをＯＧの右側までもってくることを再検討してもよいのではないか。ラグビー場へ来た人を無料にするという前提で、ひとつの考え方ではないか。

○（関係館の事例紹介）事前決済もあるが、基本的にはカウンターで有人対応による現金またはクレジットカード払いとしている。決済方法を変えての人件費抑制は、未だに課題である。特別イベントを開催しないと集客できていないのが現状。有料にしているため、ポイントでイベントを打たないと集客できないということが開館後に分かった。小さなカフェを併設しているため、イベント時は館内1階部分のみ飲食ＯＫとしている。常設展示やパネル展示だけで集客するのは相当難しく、人が集まるスペースを活用して他団体とイベントを開催する必要があるのではないか。

○受付は有人だが、現金対応可能という選択肢はないのか。原則キャッシュレスだが、対応が難しい方は例外的にショップで対応している館もある。

○無料／有料エリアで行き来がある際、事前に人流を考えて人がつまらないようにしてほしい。

○新国立競技場がすごく近い場所であるため、事前予約制のイベントとしてオリパラのようなアクレディテーションを自分で作ってそれをアスリート気分で入館できるような体験もよいのではないか。入退場をスポーツとリンクするような仕掛けがあると、来館者の思い出や体験にも繋がるのでないか。難しいとは思うが、大会毎で変わったりするのも関心に繋がるのではないかと思う。

5. 事務連絡

（１）令和7年度Innovate MUSEUM事業について

（２）令和7年度アウトリーチ展覧会「スポーツの造形」展について

事務局より資料5、6について説明があった。

（以上）